

議事要旨

内容	第8回福知山市新文化ホール基本計画再検討委員会
実施日時	2025年8月1日（金）13:30-15:30
場所	福知山市厚生会館 中会場
参加者	委員 夜久豊基、菊田学美、足立直敬、谷垣修身、谷垣均、中村豪文、渕上紫乃、前田竹司、牧野新子 アドバイザー 渡辺弘、阪田弘一 事務局（福知山市） 山本、森田、井上、塩見、岩木、梅原
使用資料	・第8回福知山市新文化ホール基本計画再検討委員会資料

◆主な検討結果

（1） 整備費の単年度負担額（目安）について

- 類似施設の事例を参考に建設費用を仮置きし、想定される財源内訳や交付税措置、及び市の単年度負担額（目安）を確認した。

（2） 施設機能について

- 舞台が広すぎると興行主が負担するコストが増えるため、プロも市民も利用しやすいように適正な広さの舞台とする。

（3） 建設候補地について

- これまでに再検討委員会で検討してきた機能や規模が実現することを前提に、第一候補を駅北ゾーン、第二候補を御靈公園・厚生会館ゾーンとする。

議論の要旨

1. 開会

(委員長) 暑い日が続く中、お集まりいただき感謝する。今日は建設候補地について最後の絞り込みを行う。

2. 協議事項

(1) 整備費の単年度負担額（目安）について

—整備費の単年度負担額（目安）についての説明—

- ・ (委員 E) PFI・官民連携については、いつ議論するのか。
- ・ (事務局) その件についてはこれまでの委員会にて、公民連携手法での整備を検討するように再検討委員会が市に要求すると決定している。それを踏まえて、導入が可能な手法を市が検討することになる。
- ・ (委員長) その件については、第 6 回の委員会において、再検討委員会から行政へ公民連携を求める提案をする、ということとなった。
- ・ (事務局) 施設や事業の規模を決定し、市で計画を整理したうえで、公民連携手法の導入可能性について民間事業者にヒアリングしたいと考えている。
- ・ (委員長) 国庫補助である都市構造再編集中支援事業補助は前回選定した駅北ゾーンおよび御靈公園・厚生会館ゾーンがすべて該当するという認識でよいか。
- ・ (事務局) いずれのゾーンも対象範囲である。
- ・ (委員長) 交付税措置額は変動する。また、記載している金額がそのまま現金で入ってくるわけではないことに留意する必要がある。
- ・ (委員 D) 物価上昇が予想されるが、資料のように約 50 億円での建設は実現可能か。
- ・ (委員長) あくまで目安である。
- ・ (委員 E) 現時点でも最も有利な補助金を選定しているという認識でよいか。
- ・ (事務局) その認識でよい。地方債の借り入れはバリエーションがあり、令和 7、8 年の期限付のものもある。期限の延長も十分に考えられるが、現時点で確定しているものではない。
- ・ (委員 J) 50 億円は 600 席のホールを検討する際に計画した予算であるため、それ以上の金額になる可能性が高いと考えられる。
- ・ (事務局) この資料はあくまで 50 億円を想定した場合の財源内訳及び交付税措置の考え方に関する資料として見ていただきたい。
- ・ (委員 I) 資料 p4 には、物価上昇を加味して概算単価は 90～100 億円と記載されているが、現在の状況を踏まえると 100～150 億円と考えていた方がよいと考える。建設費用は設計しないと分からないので、再検討委員会後に判明することとなるが、その金額を受けて建設の必要性を再検討する可能性はあるのか。
- ・ (委員長) 再検討委員会の目的は市民目線で意見を集約し、その内容を行政に提案することであり、最終的な決定は市が行うこととなる。
- ・ (事務局) 本資料は建設に必要な費用についての質問を受けて作成したものである。今回は 50 億円の予算を 30 年間で償還するというシミュレーションを行っている。再検討委員会の意見をベースに、財政状況を考慮しながら検討を進めていく。
- ・ (委員 I) 再検討委員会では市民目線での意見を出し合っているが、建設前提で話が進行しているように感じる。財政的な根拠を考えると、この条件で問題ないか疑問に感じる。財政的に厳しいにも関わらず、建設せざるを得な

いような状況になることは避けたい。建設の責任の所在は明確にしてほしい。

- ・ (委員長) 再検討委員会の役割はあくまで市民目線の意見を行政に提案することにある。

(2) 施設機能について

—施設機能についての説明—

- ・ (委員 J) 建設候補地の面積を先に提示してほしかった。
- ・ (事務局) 建設にあたって必ずしもこの面積が必要というわけではない。あくまで目安として捉えていただきたい。
- ・ (委員 J) 今まで選んだ候補地には 1000 席規模のホールが建設可能な面積があるという認識でよいか。
- ・ (事務局) 設計段階にならないと厳密にお答えできない。
- ・ (委員 G) 人口減少を考慮して、長きにわたり維持できる文化ホールを考えることも重要である。
- ・ (委員 E) 広い方が様々な用途に使えると考える。100 万円/ m^2 と延べ床面積を掛ければ、建設費が出るという認識であっているか。
- ・ (事務局) 認識はあってる。ただし、100 万円/ m^2 もあくまで目安として考えていただきたい。
- ・ (委員 J) 1000 席のホールだとプロも呼びやすいため、プロが興行できる舞台面積が望ましいと考える。
- ・ (アドバイザー K) 多目的な部分を確保しないと 1000 席のホールは活用しきれない。また、1000 席に対して、舞台の間口が 10 間（幅 18.0m）は広すぎる。舞台を広くしすぎると事業や興行をする側もその分コストがかかる。それより、舞台をもう少しコンパクトにして、舞台袖を拡張した方がいいと考える。資料 p 9 のホールは音楽専用であるため、これを参考に建設すると多目的に使えない恐れがある。また、音楽利用を想定するのであれば、音響反射板についても考慮しなければならない。
- ・ (委員長) 音響反射板について、計画はあるか。
- ・ (事務局) 基本計画の中にも「ホール機能については幅広い音楽利用に対応し、楽器の生音の響きを活かすことができる優れた音響性能を備えます」と記載している。また、「音楽利用をはじめとした多様な舞台芸術等に対応できる機能も有したホール」を前提としている。市民懇談会でも舞台の奥行きを求める意見があった。それを踏まえると市民の皆さんにはパターン③は想定していないと認識をしている。
- ・ (委員長) パターン①は大きすぎる一方で、パターン③は狭いということを踏まえると、パターン②の方向性で検討が進んでいくと予想される。
- ・ (委員 C) 市民も利用しやすいホールにするならば、パターン②,③が望ましいと考える。

(3) 建設候補地について

—建設候補地についての説明—

- ・ (委員 E) 前回の建設候補地の資料に、誤解を招く記載があったと考える。それは、駅前市有地の留意点にあった「定期借地の期間終了（令和 11 年 9 月末）までは活用の検討が難しい」との記載である。この記載により、令和 11 年 9 月末まで、定期借地契約が今後も継続されるのか、そこで終了になるのかが判断できないと誤認をしてしまった。しかし委員会終了後に、定期借地は契約終了と同時に更地返還されると知った。前回の議論で駅前市有地を有する駅前ゾーンを候補地から除外したが、改めて建設候補地に含め直してよいと考えている。他の委員も勘違いしている可能性があるため、説明をいただきたい。
- ・ (事務局) 定期借地とは、契約期間中の安定的な利用を担保する契約である。現在、利用されている相手方がいるため、ホールの候補地として検討することには慎重であるべきと考え、そのような記載とした。

- ・ (委員 E) 駅前市有地は有力な候補地であったと考える。
- ・ (委員 J) 自分も駅前市有地は令和 11 年 9 月まで検討ができないと捉えて議論に参加していた。自分が誤った認識のまま発した意見によって駅前市有地の候補が除外されたのであれば、再度検討したい。
- ・ (委員長) 委員 J の意見のせいで駅前市有地が除外されたのではなく、あくまで参考にしたうえで委員らが判断した。
- ・ (委員 J) 他の委員は間違った認識をしていないのか。
- ・ (委員 G) 私は福知山の特性を活かした街中回遊を目的として、別のゾーンを選択した。
- ・ (委員 F) 私は現在営業中の事業者がいる駅前市有地を建設候補地にすることは適切ではないと考える。前回の決定どおり、駅北ゾーンおよび御霊公園・厚生会館ゾーンで建設候補地の議論をしてはどうか。
- ・ (委員長) 私は駅前市有地が更地返還されることは理解したうえで前回の議論に臨んでいた。そのため、駅北ゾーンおよび御霊公園・厚生会館ゾーンを建設候補地とする決定を覆すことは適切でないと考える。
- ・ (委員 C) 自分も駅前市有地を建設候補地に戻す必要はないと考える。
- ・ (委員 I) 私は駅前市有地で現在営業中の事業者がいるにもかかわらず、駅前市有地を候補地とすることには抵抗がある。もともとそのような議論がなされていたのであれば、公表しても問題はない。ただし、一定の配慮が必要である。一方、他のゾーンを選択した場合でも、公園の代替地や地元住民との調整が必要であり、時間を要する。同様に時間がかかるのであれば、駅前市有地が候補地に入ることは魅力的である。
- ・ (委員 D) 私は定期借地の仕組みを理解している。現在、駅前市有地を定期借地にすることにより得ている年間の貸付金は多額である。この収入が失われることを懸念して、駅周辺のゾーンのうち駅北ゾーンを選択した。
- ・ (委員 B) いずれの候補地にても、既存の利用者の思いがあると考える。
- ・ (委員長) 前回決定したゾーンで検討を進めることに賛成の方は挙手をお願いする。

【賛同多数】

- ・ (委員長) 前回決定したゾーンで検討を進めることとする。さて、ゾーンの選定についての意見は無いか。
- ・ (委員 F) 駅北ゾーンに含まれる 3 つの建設候補地について意見を述べる。市民交流プラザは非常に利用率が高いので、その敷地内へ建設すれば相乗効果が見込める。駅北口公園については、皆さんのが想像しているよりもイベントが少なく、清掃も行き届いていない状況である。福知山駅前のバストーリー部分の開発については、鉄道会社の建物なども含んで再開発といった形になると想定される。
- ・ (委員 C) 文化や人の流れ等を考慮すると、御霊公園・厚生会館ゾーンを一体的に整備することがよいと考える。厚生会館の隣接地は使えないのか。
- ・ (事務局) 当初の基本計画で厚生会館用地を建設予定地としていたことから、厚生会館隣接事業者へ接触しており、再検討開始以降も、厚生会館用地が建設候補地に入っていることは伝えている。ただ、再検討の前後で接触の際のトーンを変えており、現在は「引き続きご相談にお伺いすることがあるかもしれない」程度の一般的な連絡を行っている。
- ・ (委員 C) 御霊パーキングに御霊公園を再建し、現在の御霊公園に新文化ホールを建設するはどうか。人の流れ、文化的な部分を考えると御霊公園・厚生会館ゾーンへの建設が適していると考える。
- ・ (委員 I) 具体的な建設候補地ではなく、ゾーンによる建設候補地の提案に賛成する。自分は公共施設と一体化して文化拠点を建設する方が望ましいと考えるため、駅北ゾーンを希望する。
- ・ (委員 J) 駅北口公園がよいと考える。市民交流プラザにはギャラリーや練習場などがあるため、近隣に建設することで市民交流プラザにホール機能の一部を担わせることが出来る。

- ・ (委員 E) ゾーンでの検討に限定することに賛成する。都市公園の代替地としてターミナルビルの屋上に庭園を設け、駅とホールの 2 階を連結するなど複合的な開発も検討できる。
- ・ (委員 G) 利便性を考えると駅に近い方がよいが、街づくりを考慮すると厚生会館用地がよいと考える。
- ・ (アドバイザー L) 駅北ゾーンと御靈公園・厚生会館ゾーンは正反対の性質を有している。今後どのような街にしたいかを考えて選択すべきである。従来の街づくりは広域的な回遊性を重視する場合が多いが、人口減少時代に合わせたコンパクトシティを目指すのであれば、駅周辺への集約が求められる。
- ・ (委員 D) 街づくりを考えると御靈公園・厚生会館ゾーンを大事にしたい。
- ・ (委員 B) 駅北ゾーンがよいと考えるが、厚生会館用地を拡張できるのであれば決定が難しい。厚生会館用地はどうなるのか。
- ・ (事務局) 厚生会館は築 63 年が経過しており、空調や配管をはじめとする施設設備がかなりのダメージを受けていることから、長くは持たない。厚生会館用地の拡張については先が分からぬ状況である。選択いただいたゾーンの中で、どの組み合わせが現実的であるか、検討が必要であると考えている。
- ・ (委員長) 今までの意見を踏まえると具体的な候補地を絞り込むのではなく、ゾーンの選択を行うという意見の方が多いように感じる。ゾーンを選ぶ方向性で問題ないか。
- ・ (委員 G) 今後 40~50 年を見据えて大切に街づくりを考えたい。福知山には何もないという声もあるが、知られていないだけである。福知山の歴史を広めるためにも文化拠点が必要であり、それが人を呼び込むことにつながる。文化を広めるには、一箇所に集中させるより複数箇所に点在させ、面的に展開することが必要である。
- ・ (委員 J) 厚生会館用地が拡張された場合、日影規制は解除されるのか。
- ・ (事務局) 日影規制は解除されるものではない。
- ・ (委員 I) 厚生会館用地について、想定浸水深を考慮すると重要な機能は 3 階以上に整備する必要があると認識をしているが、高さ制限はどうなるのか。
- ・ (事務局) 高さについては、設計してみないと分からない。ただし、当初の計画では 1 階に駐車場、2 階に創造活動機能、3 階に客席というレイアウトを示している。
- ・ (委員 I) 厚生会館用地が拡張できない場合、当初の計画程度の広さの建物になるのか。御靈公園は広いが、御靈神社の参道に建設されると、市民から反対の声が上がる可能性も考えられる。高さ制限と厚生会館用地の拡張の可否が分からぬ限り、ゾーンを選ぶのは難しい。
- ・ (委員長) 厚生会館用地の拡張ができない場合、当初の計画に戻るのか。また、参道に建設した場合の課題を分かる範囲で提示できるか。
- ・ (事務局) 現在の厚生会館は北側に舞台があり、高さ規制に該当しているため、北側に舞台を建設すると日影規制の問題が生じる。しかし、南北を入れ替えて舞台を建設すると日影規制の対象から外れるため、当初の計画はそのように整理されている。敷地が拡張されると建物レイアウトも変わるため、バリエーションが広がる可能性は考えられる。参道の部分に掛からないように建設できるかは、調査が必要である。また、用地取得はその周辺住民にもご協力いただく必要があるため、候補地の可能性があるならば事務局として確認を進めたい。
- ・ (委員長) ゾーンを候補地として、行政に提案するということに賛成の方は挙手をお願いしたい。

【全員賛同】

- ・ (委員長) 建設候補地は、ゾーンでもって再検討委員会の意見とする。再検討委員会の意見を行政に提案し、その意見を踏まえて行政が最終的な判断を下す。
- ・ (事務局) 用地の拡張については、今すぐに結論を出すことは難しい。

- ・ (委員長) それぞれのゾーンについて課題は残るが、課題の解決を待ってから再検討委員会で判断することはスケジュールの問題で難しい。そこで、駅北ゾーンと御靈公園・厚生会館ゾーンに優先順位を付けるのはどうか。
- ・ (委員 J) 1000 席規模のホールが実現可能であれば、その進め方で問題ない。
- ・ (委員長) 設計してみないと分からぬ部分もあるため、この場で必ず確保できるとは言えない。
- ・ (事務局) 日影規制は南北を入れ替えれば、クリアできる見込みである。1000 席は確保できるよう努める。
- ・ (委員 D) 1000 席規模のホールを建設できる前提で候補地を選び、行政に提案したい。
- ・ (委員 G) 50 年先、どのような街にしたいかを考えることが重要である。
- ・ (委員 C) 固定席で 1000 席規模という前提で候補地の優先順位を考えるということで問題ないか。また、検討するにあたって、福知山の文化歴史観光すべてを含めて考えてほしい。
- ・ (委員長) この再検討委員会で議論した内容が実現することを前提として、第一候補と第二候補を決定したい。駅北ゾーンを第一候補とする方は挙手をお願いしたい。

【賛同多数】

- ・ (委員長) 御靈公園・厚生会館ゾーンを第一候補とする方は挙手をお願いしたい。

【賛同少数】

- ・ (委員長) 議論内容が実現することを前提として、第一候補を駅北ゾーン、第二候補を御靈公園・厚生会館ゾーンとする。
- ・ (委員 D) 創造活動機能、交流機能についての議論は行わないのか。
- ・ (委員長) その詳細な内容まで再検討委員会で議論するには時間が足りないと考えるため、当初の検討員会で作成した計画で進める予定である。この案を含めてベストな形で進めるよう、行政に要求する。
- ・ (事務局) 駅北ゾーンについては市民交流プラザとの機能分担の提案が出たため、検討したいと考えている。その他にも要望があれば、意見いただきたい。
- ・ (委員 J) 民間が練習室を運営しているため、そこと連携する方法も考えられる。
- ・ (委員 D) キッズスペースの確保は福知山市の「ベビーファースト宣言」を踏まえた街づくりの観点からも力を入れてほしい。

以上